論文執筆要綱

（2026 年 7 月 14 日改訂）

1. 原稿書式

a）A4 判，横書きとする。

b）横 40 字，縦 40 行とする。本文等の文字の大きさは 10.5pt 以上とし，余白は上下左右 3cm とること。

c）原稿は，本文，注，引用文献，図・表，付録を合わせて，25 枚以内とする。

d）図・表，付録は，適宜，間を詰めて 1 枚に複数件を記載することができる。ただし，順序は図・表の番号順とし，入れ替えないこと。

2. 原稿の構成

原稿は，a）標題紙，b）要旨（和・英），c）目次，d）本文，e）注，f）引用文献，g）図・表，h）付録からなるものとする。a）標題紙から f）引用文献までは，必ず含めること。

a）**標題紙**　1 枚の用紙に，以下の 7 項目を記載する。

(1) 投稿論文種別（和）：「原著論文」または「展望論文」

(2) 標題（和・英）

(3) 執筆者名（和・英）：共著者全員の氏名

(4) 所属機関（和・英）：共著者全員の所属機関

(5) 住所（和・英）：筆頭著者の住所

(6) メールアドレス：共著者全員のメールアドレス

(7) ORCID iD：ORCID iD をもつ者の ID

(8) 英文校閲のチェック者・機関名または AI・機械翻訳サービス名

上記(1)〜(7)の情報は雑誌にそのまま記載される。(5)に関して記載を望まない場合は，「記載不可」と明記すること。

b）**要旨**　当該論文の要旨を【目的】【方法】【結果】（Purpose, Methods, Results）に分けて，和文は総文字数 800 字以内，英文は 250 words 以内で記述する。ただし，展望論文の場合は【目的】だけでもよい。英文と和文で内容が異ならないように留意すること。英文はネイティブチェックを済ませていること。ただし，投稿時点では著者の責任のもと AI により英文校閲したものも認めるが，その場合は受理後に人間によるネイティブチェックを行うこと。

c）**目次**　本文の章・節名のリストを作成する。

d）**本文**　章，節，項などのたて方は，次の順序によることを原則とする。なお，章の見出しはページの中央に，節以下は左づめとする。

I. ……　章（前後 1 行をあける）

A. …… 節（前 1 行をあける）

1. …… 項（前 1 行をあける）

a. …… 目

e）**注**　本文の後に注の番号の順に列挙する。ただし，付与は最小限にとどめること。

f）**引用文献**　本文の後に，和文欧文の順に分け，和文は五十音順，欧文はアルファベット順に列挙す

る。同じ著者による文献は出版年順に列挙する。

g）**図・表**　引用文献の後にページを改めて，まとめて記載する。

h）**付録**　本文では記載できなかった図表等を補足資料として付けることができる。また，論文の根拠となるデータを，データアーカイブで公開し，その URL 等の参照先情報を本文末尾に記載することを推奨する。

3. 文章・表記など

a）**文章**　文章は原則として常用漢字と現代かなづかいを用いる。

b）**記号**　以下の記号は，特定の用法で用いる。

（　）…… 説明・その他付加的に記述する事柄

“　” …… 引用箇所の表示

c）**書名**　文中における欧文の書名・誌（紙）名はイタリック体とする。邦文書名・誌（紙）名は『　』で囲んで示す。

d）**表**　表はその上部に 第○表 と標記し，標題を添える。

e）**図，写真**　図や写真は，その下部に 第○図，写真○などと標記し標題を添える。図や写真は鮮明で見やすいものとする。

f）**図・表等の注記**　表，図，写真に注記の必要があるときには，肩付き番号 1, 2, . . .として図・表等の下部に付記する。なお，他の資料から流用するものはその出典を明記する。他者の著作物を含む場合には，著作権者からの許諾を得るなど，必要な権利処理を済ませておくこと。

g）**挿入箇所**　表，図，写真の挿入箇所は，本文中で改行して【　】で明記する。

本文 . . . . . .

【第 1 表】

本文 . . . . . .

h）本文の始まりから注・引用文献の終わりまで，連続のページ付を行い，原稿の下部にノンブルを付与する（標題紙からの一連番号になってもよい）。

4. 引用

a）本文中で他の文献から引用する場合は，その都度，該当箇所に丸括弧に入れて著者の姓と出版年を示すか（例 2），あるいは本文中に著者の姓を記載し，その直後の丸括弧に出版年を示す（例 1）。直接引用する場合は，必ず引用符“　”で囲む（例 2, 3）。複数の文献を引用する場合は引用文献リストと同様の順番で並べる（例 4）。著者が 2 人までならばすべて示し（例 5, 6, 7），3 人以上の場合は筆頭著者名と「ほか」（和文）または「et al.」（欧文）を示す（例 2, 3）。

例 1：三田（2023）は，大規模言語モデルに基づく生成系 AI の発展を指摘した。

例 2：“所有からアクセスへの利用行動に焦点を当て”た研究がなされている（広江ほか, 2021）。

例 3：広江ほか(2021)は“所有からアクセスへの利用行動に焦点を当てる”と研究目的を説明している。

例 4：所有からアクセスへの利用行動の変容に焦点を当てた複数の研究成果が報告されている（広江ほか, 2021; Borgman, 2018）。

例 5：Van de Sompel と Beit-Arie（2001）は学術情報サービスにおけるリンキングについて研究した。

例 6：法令適用結果の予測などに向けたオントロジーの開発という研究がある（博松 & 山口, 2004）。

例 7：学術情報サービスにおけるリンキングについての研究がある（Van de Sompel & Beit-Arie, 2001）。

b）本文中で著者名のない文献（新聞記事や辞典中の項目等）を引用するときは，記事タイトル（**例：**（県立図書館で電子書籍導入, 2024））, 項目名等（**例：**（情報学, 2020））を使用する。

c）同じ著者の同一出版年の文献を引用するときは，出版年の後にアルファベットの小文字を付ける。この組み合わせは本文中の引用と引用文献リストで同一とする。

例：Borgman, 2015a; Borgman, 2015b

d）引用文が長く，独立した段落として表示する必要があるときは，その前後に各 1 行の空白行をおき，かつその行の左端の 2 字分を全体にわたって空白とする。

例：

（1 行空白）

2字空白データ項目（データ要素）とは，基本的にデータ管理の単位であり，これが集まりレコードを構成する。それゆえ，いかなる単位（まとまり）でデータ操作や管理を行う必要があるのかという観点から決まることになる。

（1 行空白）

e）引用文献内の引用箇所を特に示す必要がある場合には，本文において丸括弧内の著者名と出版年に続けて，該当ページを指定する。

例：“…脚光を浴びている”（三田, 2023, p. 6）

f）引用文献リストにおける記載方法はアメリカ心理学会論文作成マニュアル第 7 版（APA 第 7 版）に準拠する。以下に代表的な場合を例示する。より詳しい例示に関しては，当学会誌ウェブサイトの「引用文献記載例」を参照すること。

例：

［雑誌論文］

谷口祥一. (2022). JAPAN/MARC 書誌レコードから NCR2018 エレメントベースのメタデータへの変換. Library and Information Science, *88*, 49-71. https://doi.org/10.46895/lis.88.49

Sakai, Y., Kunimoto, C., & Kurata, K. (2012). Health information seekers in Japan: A snapshot of needs, behavior and recognition in 2008. *Journal of the Medical Library Association*, *100*(3), 205–213. https://doi.org/10.3163/1536-5050.100.3.011

［単行書］

西垣通. (2004). 基礎情報学: 生命から社会へ. NTT 出版.

McMillan, G. K. (1994). *Measurement and control* (2nd ed.). Instrument Society of America.

Vickery, B. C. (2000). *Scientific communication in history*. Scarecrow Press.（ヴィッカリー, B. C.(2002). 歴史のなかの科学コミュニケーション. 村主朋英（訳）. 勁草書房.）

［論文集中の論文］

Kishida, K. (2010). Methods for cross-language information retrieval. In E. F. Caldwell (Ed), *Bilinguals: Cognition, education and language processing* (pp. 243-286). Nova Science Publishers.